

2歩で人見抜く防犯カメラ

防犯カメラ映像に記録された歩き方などの特徴から、個人を高い精度で識別するシステムの開発に、大阪産業科学研究所の八木



康史教授(視覚情報処理)らの研究チームが取り組んでいる。顔がぼやけた映像でも99%の確率で特定でき、来年3月までに犯罪捜

査用ソフトとして完成させたいとしている。

八木教授らは、歩く際の腕の振り幅や歩幅、姿勢などが人によって微妙に異なる点に着目。歩く姿を影絵

のような映像に加工して解析し、特徴を数値化することで、異なる場所で撮影された歩行者が、同一人物かどうかを判定できるという。

顔がはっきりわからない

解像度の低い映像を用いて、1000人分をこのシステムで分析したところ、90%の精度で識別できた。

さらに、髪形や肌の色といった頭部の特徴と、身長 of 要素を加えたところ、99%まで精度が向上したという。

システムは、防犯カメラなどの映像から犯人を絞り込むことに役立つと期待されており、警察庁の科学警察研究所が実用に向けた評価を進めている。八木教授は「2歩分の映像があれば分析できる」と話している。

阪大 歩き方・頭・身長で識別